

月刊 まち・コミ 2011年5・6月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>
出石市民農園収穫物購入による応援者を募集中！ 詳しくは同封のチラシにて。



今月の注目記事 ● P1 ~ P3 東日本大震災 被災地支援 ~まち・コミの活動報告~

東日本大震災 被災地支援 ~まち・コミの活動報告~

3月11日14:46に起こった東北地方太平洋沖地震。

まち・コミからのボランティア募集情報を得た約30名が、4月11日~16日、5月2日~6日に、宮城県亶理郡亶理町で、海蔵禅寺の本堂と墓地、長徳寺の墓地の瓦礫撤去をしてくださいました。

長徳寺檀家護持会副会長から「(津波で被害にあったお寺や墓地を)何とかしないといけないが、周辺住民は自宅の片付けや避難生活等で、手が回りません。ご住職やそのご家族が墓地の掃除をされているが、我々は、掃除に参加できないと思って苦しんでいました。この度は、ありがとうございます。」とのお言葉をいただき、瓦礫で足元の悪い中、缶コーヒーのケース箱を持ち歩き、作業中のボランティアを一人一人捜し、手渡して下さいました。

上記活動へ至った経緯を、ご報告します。



96年8月13日 みすが夏祭りにて。右から岡崎正利和尚(高音寺)、田中保三氏、伊串泰純和尚(喜福山玄光庵)



お世話になった高音寺住職岡崎正利さん(前列左から4番目)とボランティア



墓石を傷付けないよう、大勢で丁寧に非常に重い墓石を動かします。

まち・コミの想い

まち・コミは、住民のまちづくりへの気づきの促し、まちづくりへ進むときに、ボランティアや専門家等、人の知恵や力を活かせるような環境作りを行ってきました。現地の当事者の、気づきと行動を大切に、まちづくりができるよう支援したい。そのためまち・コミは、相手のそばに行き共に行動し、何がまちづくりに活かせるかを感じてもらうことを大事にしています。

東北地方にも多くの知り合いが居ます。その中でも、年に1度必ずお会いするのは、阪神・淡路大震災の1.17 慰霊法要に駆けつけてくださる僧侶の方々です。その方々とは、1996年の七夕祭りで、企画から一緒に汗を流し、仙台からきれいな七夕飾りを、贈って下さり、多くの住民が長田に集うことになりました。今回現地に行っても「あの時、最初は、七夕飾りが難しくできないかと思ったけど、皆が力を合わせるとできたね。」と、懐かしい話になります。

3月11日の発生以来、まち・コミでは、全世界の皆様と同じように、被災されたまちに何かできることはないかと探し続けていました。「何かしたい」と多くの方が想い、まち・コミにもたくさんの方がアプローチして来られました。皆様当然ながら想いも立場も様々ですので、まち・コミでは少しでも、その想いにあった方法を、共に探したり相談に乗りました。

まち・コミも被災地のまちづくりを支えたいという想いもありますが、現在常駐スタッフ2名で他の事業もあり、現段階では、

東日本に常駐して当事者を捜すわけには行きません。そして、すぐ明日にと、迅速に動ける活動もできません。よって、このような立場でも、今までの繋がりから、神戸からの往復でもなんとか応援できる方法を相談できる当事者を探していました。

そうしている間にも何かしたい、まち・コミに募金先は任せるといふ義捐金が集まってきました。

被災地からの連絡

3月18日11:54、お世話になっている宮城県亶理郡山元町の僧侶から「ニュースには出ていませんが、現状は惨憺たるものです」と、メール連絡が入りました。その山元町は確かにそれまでニュースではあまり耳にしたことがありませんでした。その時は、相手にかかる言葉がなく、メールで返事を返せませんでした。

震災から10日間で集まった応援団の気持ちを繋げたい。そこでこれまでに交流がある方を訪ね、外からでも支援できる(=信頼を得る)ような方法を調査し、現地のカウンターパートナー探し、まち・コミから事実を情報発信できるようにするため、東北へ行くことを決めました。

3月21日昼に緊急車両申請し、夜現地から聞いた必要な救援物資を車一杯に詰め出発しました。

被災地にて

仙台市都心部は通行できるとの情報を得ていたため、まずは、毎年御蔵地区の慰霊



4月2日 瓦礫撤去前の海蔵寺境内



4月14日 瓦礫撤去後の海蔵寺境内

法要に駆けつけて下さる伊串泰純（喜福山玄光庵）住職の居る仙台青葉区へ。慰霊のお務めでお忙しい中、お会いさせていただき、現地情報を聞き、被害はひどいが支援が行き届いていなかった宮城県南東部（山元町・亶理町）に向かいました。仙台南部道路から海岸沿いに出、名取市を通過しました。田畑に車が散乱していました。そんな風景を横目に、なんとか山元町にたどり着きました。「義捐金と救援物資は、皆が困っているのでお寺ではなく役場へお願いします」と早坂文明住職から聞いていたので、先に役場へ行きました。役場内は騒然としており、被災地外部から来た応援団は、役場周辺には見られませんでした。義捐金も外部から入金できるよう口座を開いたばかりの状況で、皆様のお気持ちへ何度も礼をされ、その後FM放送りんごラジオで、放送して下さったそうです。

早坂文明住職の徳本寺に伺いましたが、檀家さんの犠牲者が130名を超え、行方不明者が居り、今後犠牲者が増えるようで、住職は供養に走り回っておられ、お会いすることはできませんでした。

最後に亶理町高音寺に向かいました。無事だと聞いており、時間はすでに18時30分でもう日が暮れ暗くなり、ご迷惑だと思い立ち寄りかと思いましたが「復興のカウンターパートナーのイメージが得られていない」、「現地1日という短い日程だが、思っていたできるだけ全員に会いたい。」と、何かが気にかかったため、お寺に電話をかけ訪問しました。岡崎正利住職は暖かく迎えてくれました。避難所にまで案内してくれ、被災者と話をする機会を設けようとしてくださいました。その時は



ボランティアは、持参したテントと車に分かれて寝ました

久しぶりに再会し、現状を教えてください別れました。

亶理町での瓦礫撤去に至るまで

5名の方に会いましたが、被災地の地元とも近く活動されている岡崎氏はどうされているか。台湾や日本の方々の、これまでの繋がりや得た人たちの力が、何か役にたてることはないか相談するため、4月2日の1日だけの予定で、再び東北へ向かいました。午前中、御蔵に学びに来てくれた学生の山元町の実家の泥かきも行いました。

午後、岡崎氏と、今後できることを話し合いました。「力仕事なら」と伝えると、海蔵禅寺を紹介して下さいました。寺は、住職が津波に飲まれ亡くなられ、周辺の家屋もほぼ全てが全壊の浜吉田地区にありました。誰も手をつけられず、そのまましばらく残る可能性がある。しかし、周辺での犠牲者も多く、お骨を持って避難所等移動している。よって、是非早くお骨を安置できる場が欲しいと。本殿やその周辺に入った瓦礫を撤去すれば安置できると。そこで地域の掘り所のお寺の瓦礫撤去をしようと決めました。神戸に帰って、若者を中心に、地域の掘り所である寺社を再興させる瓦礫撤去のボランティア参加希望者を呼びかけました。

岡崎氏は、被害の少ない地元の人が、地元の被災者を支え、新しいまちをつくることを目的とした「レッツゴー亶理」を結成され、4月29日からは、仮設住宅へ移られる方へ、生活物資を支給されています。御蔵事務所近辺の方に伝え、16年前は、何も焼かれ同じ立場だった被災者の方々が、単車を含め、ワゴン車一杯の物資を集めて下さいました。

東日本大震災活動支援募金者（順不同、敬称略）
荒川貴廣、李浩麗、梅田和江、大矢根淳、六ノ坪合資会社、鈴木八重子、岩田弘子、赤松愛子、松山幸子、竹内千恵子、斉藤賢次、阿部江利、水上路子、ヤマト新世紀会、その他物資輸送カンパもいただきました。ありがとうございました。

東日本大震災ボランティアに参加して

山田智幸

僕は18歳のとき、新潟市内で新潟中越地震を経験している。当時自宅は本棚が倒れるくらいで被害はほとんどなかった。

神奈川県にある専修大学に入り、復興とは何かを知りたくて大矢根先生の研究室の門を叩いた。授業の一環で阪神・淡路大震災の被災地で現地調査をし、御蔵の住民など多くの人にお話を聞いた。皆さんが本音や当時の汗と涙の経験を僕に話してくれ、人と人とのつながりや命の大切さ、いろんな人々の支えで復興していることを知った。

大矢根先生からは、お話をしてくれた人々や現場の人にとって意味がある(役に立つ)論文にしなければいけないと指導を受けている。僕は素晴らしい論文は書けないが、御蔵やまち・コミに対して何か還元しなければいけないと考えていた。

3月11日に東日本大震災が起き、連日ニュースで報道された。情報が錯綜していた。いろんな人が「物資が足りない」とか、「政府はなぜ早く手を打たないのか」とか不満(文句)を言っているのを耳にした。不満を言っているのに自分では行動しない人々が多くいた。同じ国の人々なのに自分には関係ないと考える人までいた。何より災害社会学を学んでいるはずの自分自身がそうであることに気付いた。そんな自分や社会に腹を立てていた。何かしてあげたい。東北の人々を勇気づけたいと考えていた。

また僕は勝手に、阪神大震災を経験した御蔵の人々は同じ経験をした誰よりも東北の人を心配し、役に立ちたいと考えていると思った。今こそ、僕に貴重なお話をしてくれた方々に還元すべきだと考えた。そこで僕は3月末にまち・コミを訪れ、何かできないかとお願いをした。その後、ボランティアの募集の連絡があり即答で行くと伝えた。

実際に被災地で泥かき作業をし、ボランティアという存在を考えさせられた。ボランティアは所詮、被災者でも現地の人でもない。だから被災者の気持ちには100%なれない。かけられる言葉があったとしてもその言葉がどう受け取られるかわからない。僕には言葉をかけてあげられるほどの地位でもなければ、カウンセラーみたいに専門知識を持っているわけでもない。その悔しさ、自分に対する不甲斐なさでいっぱいだ。だからこそ、ただがむしゃらに泥かきをすることしかできなかった。お役に立てたか正直不安な部分もあるが、ただ最後の「ありがとう」という一言がとてうれしく、行ってよかったと心から感じた。もう一度ボランティアに行きたいと本気で感じた。僕は体しか使い物にならないが、僕なりに今後も東北の人々のお役に立てる場があれば、積極的に参加したい。

高音寺の住職の岡崎さんが「避難所にいる人々や家をなくした人々や肉親を亡くした人々は今は立ち上がる気力がないかも。だからそんな時は、僕たちが力を貸して少しずつ復興に向けて歩いていく。だから、東北は決して沈んでなんかない」と話してくださった。僕は、東北の人々の強さを感じ、多くの事を現地で学んだ。多くの人に感謝したい。また、亡くなった方に心からご冥福を、被災した方にお見舞いを申し上げます。

○プロフィール○ やまだともゆき 専修大学人間科学部学生。これまでに2回、宮城県亶理郡亶理町でボランティア活動をした。



まち・コミ news



一滴水記念館 正式オープン！



3月29日、新北市淡水区和平公園開園とともに、一滴水記念館が待望の正式オープンを迎えました。これまでの応援、本当にありがとうございます。式典には地元住民はじめ、朱立倫氏(新北市(旧台北縣)市長)、田辺正美氏(日本交流協会副代表(副大使))、蔡葉偉氏(淡水区区长)、等、350人近くの方が参加しました。

3月29日より一般公開され、9:00~18:00(月曜日休館)、自由に参観することができます。早速4月に訪問された、神戸市北区にお住まいの林さんは「素晴らしい場所に建っていて感激しました。係の人が記念写真のベストスポットを教えて下さったり、シャッターを押して下さいました。台湾へお越しの際は、是非お立ち寄りくださいませ。淡水の街も大変素敵なところです。

アクセス

台北捷運(MRT)淡水駅(台北駅より約50分)より、タクシーで「淡水和平公園」と伝えると10分くらいです。地図等、詳しくは下記のアドレスからご覧いただくか、まち・コミュニケーションへお問い合わせください。

<http://machi-comi.homeip.net/m-comi/project/18/110420waytoittekisui.pdf>

大地のつぶやき

東日本大震災を想う(Ⅱ)

海岸沿いの防砂林は根こそぎ取られ、一キロから二キロ内陸部に運ばれている。家屋の二階部分が内陸部八〇〇m位の道路際に流れ着いて、平屋になっている。お寺の境内や本堂には木っ端(家屋が分解して)やら布団や毛布、衣類などが撒き散らかされたように重なっている。一つ一つ、一輪車に乗せて撤去していく地味な作業だが、次第に片付いていく。本堂も境内も床下もきれいになった時は達成感を得た。快い感動だ。スコップを使っての泥かき作業も、どちらかというところ砂かき作業に近く、スコップに妙にひつつくこともなく作業し易かった。これは出石や佐用の泥かき作業との違いか。豆理町、山元町は米農家もさることながら、沿岸沿いには苺農家が多くあり、何でもこの両町で宮城の苺生産の八十%を占めていたという。大型のパイプハウスが根こそぎ持っていかれた所もあれば、津波の来た方向に薙ぎ倒されたパイプの残骸が往時を追想させる。特産品を「もういっこ」「とちおとめ」と呼び、東京や北海道に十一月から六月にかけて多く出荷されていたそうだ。海蔵禅寺付近にも素晴らしい立派な家があり、人呼んで「イチゴ御殿」という。浜辺から流れてきた家が御殿にぶつかって止まっていたが両方とも中は壊れていて再生不可能だ。農協にとっても重要な生産物であったのに、生産者も早く立ち直って再び「もういっこ」や「とちおとめ」の名を広めてもらいたいものだ。そのためにも田畑の早期再生が必要なのに未だ海水が引いていなかったり、松の原木や家屋の木っ端やガレキが散乱している。外部の手が必要不可欠だ。三陸の水産業も平野部の農業も早く元に戻せるように支援すべきだ。出来るだけの次に復興を考える。元に戻しながらどんなシェルターをどこに作つたらいいのかを専門家を交えながら考える。ここに夢と希望が芽生える。それにして出来るだけ早い義援金の支給や支援の力が必要なのに遅すぎる。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

4/1 ~ 5/31

4/3 真野まちづくり会館竣工式
出席
4/6・19 まち・コミ打合せ
4/10 出石市民農園
4/11 ~ 13・16・23・24 震災学習
下見受入
4/17 シアトルから北岡孝統様来訪
4/19 震災体験学習打合せ
4/20 長田区役所いきいき部会出席

4/25 神戸まちづくり研究所訪問
(アドバイザー派遣ヒアリングと
震災体験学習打合せ)
4/30 観音寺参り
4/30 東日本大震災ボランティア
説明会 (in EALA)
5/2 ~ 5 東日本大震災泥かき
支援
5/6 泥かき作業道具等片付け
5/8 出石市民農園
5/8 関東都市学会発送作業

5/10・11・17・20・25 ~ 27・30・31 震災
体験学習
5/11 FromKOBE (神戸大学) シン
ポジウム「今、神戸にできるこ
と」にて講演 (田中)
5/14 パソコンネットワーク作業
5/19 島根行き (古民家)
5/21 はなれごぜおりん鑑賞・若
州人形座打合せ (一滴文庫)
5/25 大芝地区講演打ち合わせ
5/28 月刊まち・コミ印刷

ご支援、ありがとうございます。

3/9 ~ 5/20

賛助会員(新規・継続)

株式会社首都圏総合計画研究所(東京都) 和田修二(兵庫県) 尾崎裕子(愛知県) 江田隆三(東京都)
中山貴美子(兵庫県) 角谷陽子(大阪府) 難波健(大阪府) 坂戸勝(東京都) みなと元町タウン協議会(兵
庫県) 渋谷光延(兵庫県) 住田功一(大阪府) 碓田智子(大阪府) 大橋良雄(愛知県) 川岸梅和(千葉県)
宮下克己(兵庫県) 藤原柄彦(兵庫県) 川村武也(兵庫県) 森口商店(兵庫県) 武山ゆかり(東京都)
清野博子(大阪府) 小森宰平(兵庫県) 廣井昌利(兵庫県) 北島繁昭(埼玉県) 紅谷昇平(兵庫県)

寄付

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 東日本大震災の支援活動についての詳細はブログにてご報告しておりますので、ぜひご覧下さいませ。「まち・コミブログ」で検索してください。(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2011年6月1日発行

編集/発行 まち・コミュニケーション

定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014

神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1

専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/